

# 粟井新池（あわいしんいけ）



## 諸元

貯水量	260	千m <sup>3</sup>
満水面積	6.7	ha
受益面積	112	ha
堤高	14.5	m
堤長	201	m

観音寺市粟井町の山里に静かにたたずむ粟井新池(別名：奥谷池)。築造は江戸時代寛文 3 年(1663 年)、現在の観音寺市新田町(旧新田村)を中心とした一帯の水田開発のためでした。

新田村には池の築造に適した土地がなかったため、隣村(旧粟井村)の「扇の谷」と呼ばれる谷をせき止めて池を築造したため、水利用にかかる両村間の分水の取り決めには数々の苦労があったようです。築造当時、粟井村側が「新池の築造は認められたものの、粟井の稲を枯らせてまで助けるようなことはしない」と主張したため、粟井新池の下流にあり、粟井の水田を潤す「岩鍋池」の貯水が 2 割ほどになれば、新田村側は粟井新池の水を取水せず岩鍋池に入れることにより、粟井村側が今までよりも確実に水が得られるようにすることで両村は最終的に納得していました。しかしその後も、開墾の進展に伴いさらなる用水の不足が生じる度、両者の水争いは絶えなかったと伝えられています。

昭和 50 年には香川用水が通水し、農業用水の緩和に伴い協議を重ね、円満に解決する運びとなりました。

築造からおおよそ 350 年が経過し古くなった堤体は、昭和 51～53 年の大規模改修や、平成 27 年の耐震補強工事などでよみがえり、地域の人々に守られながらその機能を存分に発揮し続けています。

下流からこの地を訪れる途中、大興寺への<sup>だいこうじ</sup>遍路道となっている道路脇に、規則的に並ぶたくさんのお地蔵さん(お遍路丁石※)が目につきます。農業用水安定への土地の人々の願いが込められているようにも見えます。

※ 遍路道に 1 丁(約 109m) ごとに立てられた道標



粟井新池



規則的に並ぶお地蔵さんの 1 つ